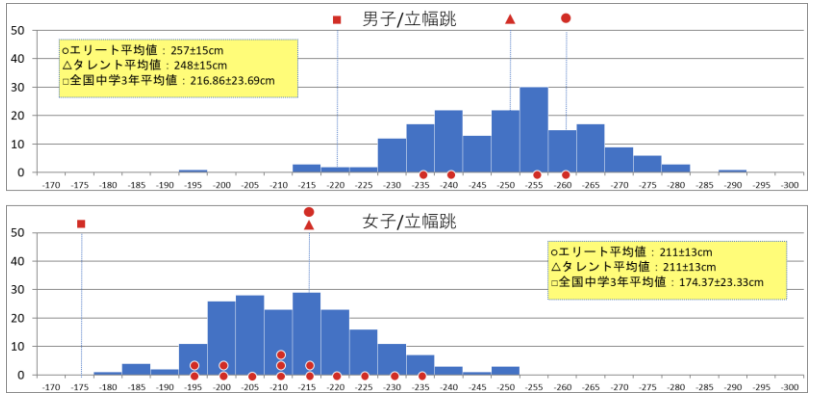
社会的背景を考慮したスポーツ科学・医学・情報支援の推進

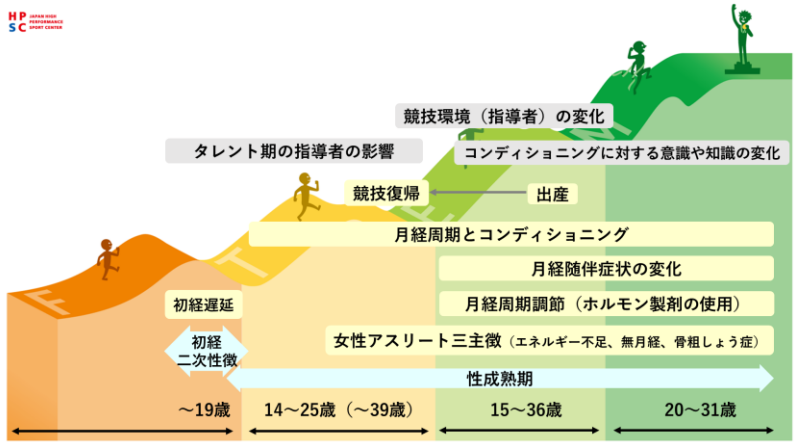
中項目1：アスリート育成パスウェイの充実に関する研究

研究課題1：
スポーツタレントからエリートアスリートまでの身体面に関する縦断的な検討



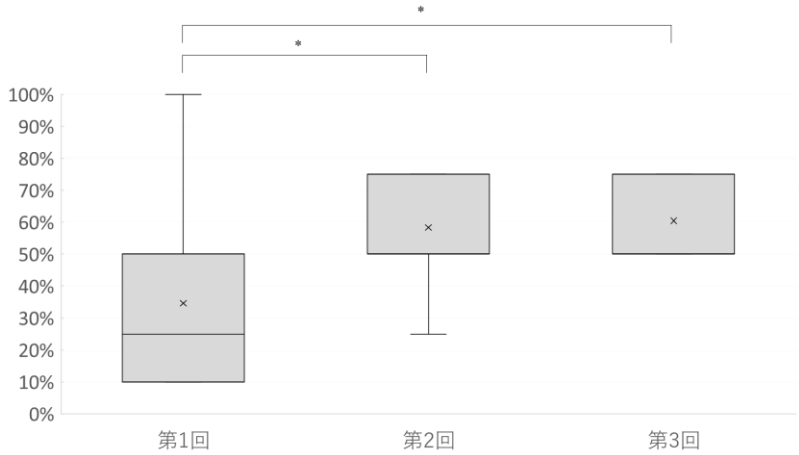
地域タレント育成事業修了生で、エリートアスリートとしてJISSのFCを受講した者を対象に、各年代の体格及び体力データをプロフィールや育成プログラムと合わせて比較検討する。

研究課題2：
女性アスリートの多様な課題を考慮した女性アスリート育成モデルの構築



引退後の女性アスリートへのインタビュー調査等から、女性アスリートの育成段階に応じたコンディショニングのための枠組み作りを検討する。

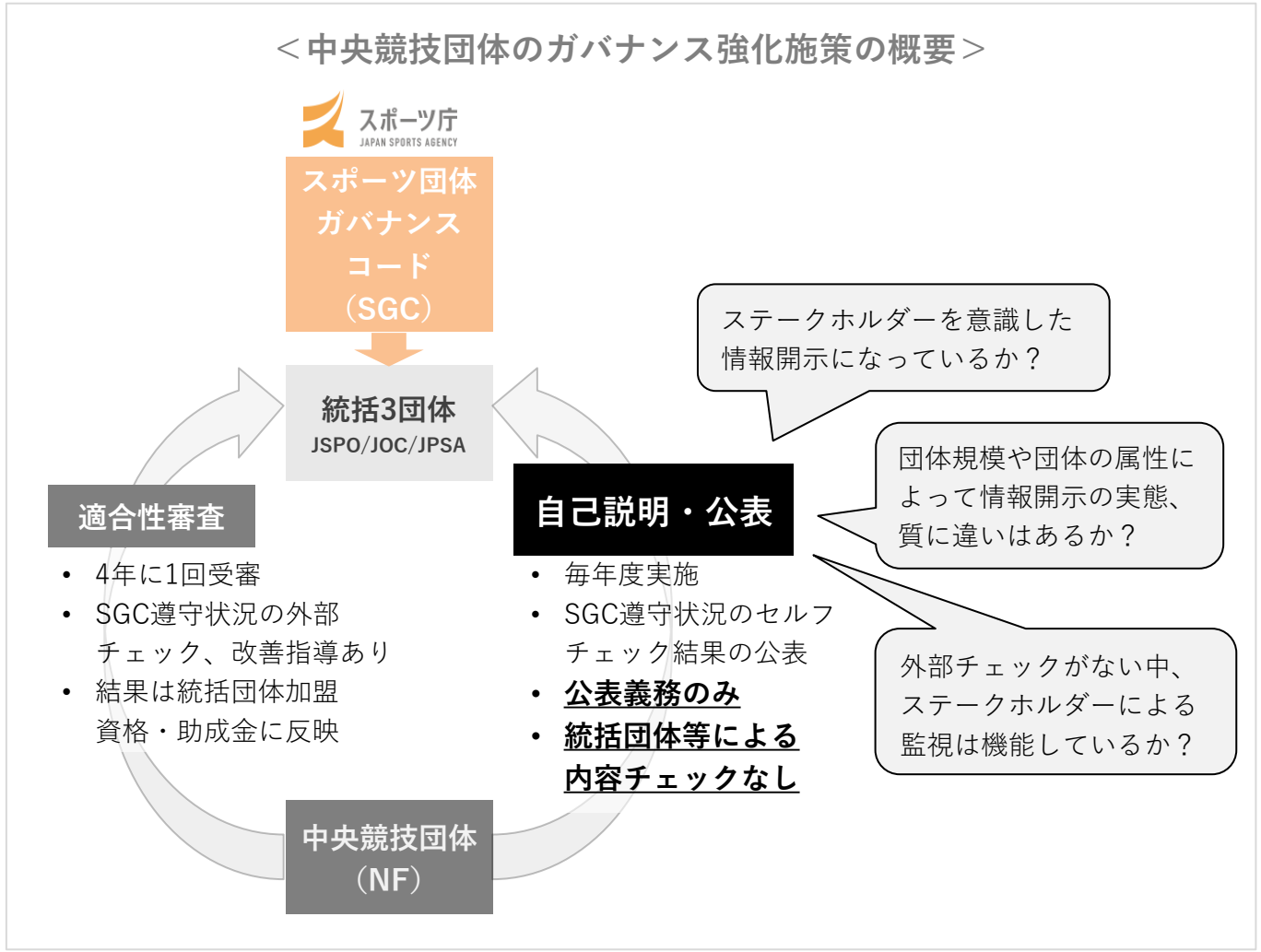
研究課題3：
競技特性に見合ったアスリート育成パスウェイを構築するための多様な実践的な知見の蓄積



NFによる競技別パスウェイモデルの策定と運用に係る計画、実践、観察、振り返りを当該NFと協働で行い、そのプロセスや成果を分析する。

地域・NFによるアスリート育成パスウェイ充実のための学術的知見提供

中項目2：スポーツ団体ガバナンス強化に関する施策の評価



外部機関による審査を伴わないセルフチェックはスポーツ団体のガバナンス強化を促進しているといえるだろうか。

本研究では、「スポーツ団体ガバナンスコード」（SGC）の導入に基づき実践されている「自己説明・公表」という施策が、SGCに示される通り、中央競技団体（NF）において「団体内部のみならず、多様なステークホルダーとの間で対話しながら、適切なガバナンスの構築」を進める政策効果があるのかについて検証を行う。

【研究課題1】
定量データによる「自己説明・公表」の効果検証

2020～2023年の期間に公表された各NFの「自己説明資料」（定性データ）を点数化（量的データ化）することで分析し、外部審査のない「自己説明・公表」であってもNFのSGC遵守を促進していると言えるか否か、また団体の属性や規模により結果が異なるか等について検証する。

【研究課題2】
自己説明の公表方法の事例分析

自己説明資料とその関連資料をNFがホームページを通じてどのように公表しているかを分析し、「自己説明・公表」が、SGCが求めるステークホルダーとの対話を促進するツールとして機能しているかについて検証する。

【研究課題3】
定性データによる「自己説明・公表」の効果検証

定量データ分析では捉えられない団体内部の動き、好事例や課題等について、研究課題１，２の結果を踏まえ、特徴的と考えられるNFのヒアリング調査を行う。